

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230020		
法人名	有限会社T&T		
事業所名	認知症対応型グループホーム 高原の家		
所在地	福島県双葉郡川内村大字下川内字田ノ入18-3		
自己評価作成日	令和2年6月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年7月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな季節感を感じられる環境の中で、「利用者本位」に家庭的な雰囲気の中で生活ができるよう「異体同心」の理念をもとに支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をもとに、管理者と職員は、利用者と家で話している言葉で昔の話をしたり、会話のなかでその人の思いに添いながら、安全で安心して暮らせるよう取り組んでいる。地域密着型サービスの意義と役割を理解し、日ごろから地域の方とつながりながら暮らしていくことを大切に考え交流している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位」「異体同心」「地域密着」の理念をもとに、職員は日常生活を支援しながら、その理念の実践につなげております。	一人ひとりの状況を尊重し、無理しないで生活するためにはどうしたらよいかを考え、その人に合ったケアに繋がっている。家で話している言葉で話してもらえるよう配慮しながら、思いをくみ取り、利用者本位の生活ができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の庭に花が咲く時期には、散歩がてらお邪魔させていただき、時々畑で作った野菜の差し入れがあったりと、時々交流する機会があります。	地域の方と自然に声を掛けたりかけてもらったり、隔てなく交流している。地区の婦人会の方が、地区ごとに催しものをいろいろと考えてくれ、定期的に披露してくれている。小学生が花束を届けてくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援の方法を地域の方々に向けて活かす機会がほとんどありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、状況報告と意見交換をしている。報告の内容に関してのアドバイスなど様々な意見を次の機会に活かせるよう努めております。	会議のなかで、事業所の活動内容や利用者の状況を、文書にまとめ伝えている。活動内容等をわかりやすくことばでも説明するようにしている。活発な意見や提案をいただけるような、有意義な会議にしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や認定調査の後など社協や保健福祉課の方々や情報交換や入居相談、状況報告を行っております。	役所の担当者に事業所の状況を伝え、情報交換をしている。入居や認知症対応型通所介護の利用申し込みの知らせてもらい、役所のケアマネージャーを通して。感染症対策で、消毒液が不足した時は連絡を取れるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、正しく理解するとともに、安全面を考慮した対応に努めています。(椅子から立ち上がった事が分かるセンサー、ベッド下に設置しているセンサーなど)	入居時に家族の方に身体拘束について説明し、理解して貰っている。言葉の拘束については、職員自身が気づき、ふりかえり管理者と相談し、拘束のないケアをしている。ひとり歩きする方には、見守りながら、安全に過ごせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けていくとともに、職員間で話す機会を多く持ち、振り返る事で虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会にまで至っておりません。必要に応じて活用が出来るよう学ぶ機会を設けていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約書、重要事項説明書、看取りに関する指針を読み上げながら、説明を行い理解していただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況を報告するとともに、意見交換する機会を設け、今後のケアに活かせるよう努めております。	家族の方と、意見や要望を聞ける機会を多く持つようしている。利用者から、自分に何かできることはないかと話があり、レクリエーションをしたり、洗濯物をたたんでもらったり昔の話をなどして、その人の思いに応えられるようしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間やお昼休憩の時間を利用して、職員の意見や提案を聞く機会を設けております。	職員の意見は、運営するうえで大切なことと考えている。利用者の健康・安全を守るための医療機器の提案があり、購入しケアに活かしている。職員の資格取得を働きかけ、勤務体制など考慮しサービスの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境に合わせた勤務時間の対応。また、資格取得しやすい環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が勤務の際は、職員と話しをする機会を設け、現状を把握するとともに相談に応じております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の夏祭りに参加する機会はありませんが、サービスの質を向上させていく取り組みにまで至っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境に慣れて頂きながら、ご利用者様が話しやすい環境づくりと安心して生活が出来るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたってご家族の要望、意向を聞きながら、信頼関係が築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって困っている事、大変な事から、その時に合わせたサービスが支援できるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、生活の中でできる事を手伝って頂きながら、生活を職員とともに過ごせるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌で状況報告をしている。何かあれば電話連絡、相談をして状況に応じてご家族の協力をいただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	野菜の差し入れついでに同じ区に住んでいた、顔なじみのご利用者様に話しかけていく機会があるようにつながりがあります。	家族の方からこれまでの生活歴を聞き、人間関係を把握するようにしている。利用者の踊りの仲間だった友人や、これまで住んでいた地区の顔なじみが訪ねてきてくれている。行ってみたいところに行けるよう、支援したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性など考慮しながら、席替えをしたり、話が出来る環境づくりに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族の身内に入居、相談したいという方がおり、継続的に相談支援に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話から、ご利用者様の意向や希望を聞き出せるよう努めております。	思いや意向を聞き出せる環境づくりに努めている。ゆっくりと過ごしているときに寄り添い、たくさん話をしてもらうなど、その人の思いを把握するようにしている。困難な方には、声かけし行動や表情から思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時にご利用者様の生活歴を聞き、これまでの暮らしの把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調に合わせて、無理なく1日が過ごせるよう状態観察に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居にあたって、ご利用者様、ご家族の意向を聞き、困っている事などを踏まえ、ケアプラン作成をしております。	無理なく安全・安心に過ごせるよう、本人の思いや身体状況に合わせて、医師の意見を参考に個別の具体的な介護計画を作成している。計画の見直しをしたときは、郵便で家族に知らせ、その人の状況を知ってもらうようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子をパソコンにケース入力している。又、申し送りノートを通して職員間で情報共有している。パソコン入力してあるものを振り返り、介護計画に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたいといった訴えが多い時方には、ご家族に面会を依頼したり、時には家に一時帰宅をして家で過ごしていただく事もあり、ご家族の協力のもと支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	婦人会によるボランティアがある事で、昔からの顔なじみで触れ合う機会として良い刺激を受ける事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関してご利用者様、ご家族の希望に沿って対応しております。定期受診により適切な医療が受けられるよう努めております。	かかりつけ医から紹介状をもらい、協力医療機関に変更する方もいる。受診は、職員が同行し、安心して受診してもらえるようにしている。受診結果は、毎月のお便りで知らせ、緊急時は電話で連絡し、状況を知ってもらうようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、気づいた点を申し送りノートに記入したり、口頭で看護師へ申し送りするなど、受診時に医師へ相談できるよう努めております。状態によっては看護師と相談し受診を検討することもあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの日常生活において気を付ける点など、ケアに関しての申し送りを細かく申し送りをしている。認知症を考慮し、病状が落ち着いていれば早めの退院を相談される場合もある為、病院と連携を取りながら対応しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様とご家族が終末期にはこうしてほしいとの考えがまとまっている場合には、その方針を伺っておく。また、状態が悪化した際には、医師と連携を図りながら、ご利用者様やご家族の意向に沿った対応出来るだけ出来るよう努めております。	入居時に、重度化や終末期について説明し、理解してもらっている。事業所の看取りの指針に基づいて、本人・家族と話し合い、その人に合ったケアができるようにしている。職員は、休憩中でもよりよい対応ができるよう話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応の訓練を行う事は難しい状況ですが、休憩時間に急変時の対応など確認をする機会があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行うとともに、近隣住民にも協力を要請しております。	消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認を行っている。火災の場合は、大きな声で知らせることが大事とのアドバイスをもらっている。職員には、年間を通し当番制で、全員に参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりを尊重し、排泄ケア時には居室の戸を閉めるなどの配慮をしている。	本人の気持ちを大切に、否定しないで大丈夫だと思ってもらえる声かけをようしている。利用者同士で、プライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入り、席を変えたり部屋に誘導したりして、気分を変えてもらえるようしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「洗濯物畳んでくれっか」と自ら率先して行動していただける方や「もう少し寝ていたい」という方にはゆっくり起きていただいたり、ご利用者様の意思に沿って対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ、ご利用者様それぞれのペースで生活が出来るよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度のペースで散髪をしている。また髪を整えたり、目やにが出やすい方はその都度拭いたり、汚れた衣類を交換するなどの対応に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日には希望を聞き、好きなものを提供しております。	その日のメニューは、利用者と相談しながら、季節の野菜や頂いた食材を取り入れ決めている。できる方には、手伝ってもらい、楽しい食事ができるようになっている。ラーメンを食べたいとの要望があり、外食できるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をつけ食事摂取量を把握している。また、お茶の他に甘い水分(ココアやレモンティーなど)を提供する事で、少しでも水分摂取が出来るよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状態に合わせた口腔ケア用具を使用し、見守りや介助にて口腔ケアの対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、排泄間隔をみながら、トイレ誘導をしている。オムツの方でも坐薬挿入後に少ししか排便みられない方には、排便促すためにトイレ誘導をしている。	本人の生活のリズムに沿って、適切な個別誘導を行い、気持ちよくトイレで排泄できるようにしている。病院から入居した方が、職員が声かけを工夫しさりげない誘導で、リハビリパンツから布パンツに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳)を取り入れ、毎日、ラジオ体操やボール運動などで体を動かしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせる事は難しい現状ですが、「入りたくない」という方には別の日に入ってもらいたくなどの対応をしております。	座ったままスライドして浴槽に入れる椅子があり、利用者の身体への負担を軽減できるようにしている。脱衣所と浴室の温度差がなくし、気持ちよく入浴できるようにしている。ゆず湯にする等、季節感を感じてもらっている、	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝以外にも体調に合わせて、横になっていたという方には休んで頂いたり、カーテンやエアコン、換気などで温度調整をして休みやすい環境づくりに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を見ながら、一人ひとり処方されている薬を把握している。申し送りノートやケース記録などで薬の変更や中止になったもの等の確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農家だった方が多く、じゃがいもの芽とりやフキの皮むきなど昔を思い出しながら作業していただく事があります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関して、一人ひとりの希望に沿って対応することは難しい現状ですが、花や景色を見て季節感を味わって頂けるよう村内のドライブに出かける事があります。	本人の状態や習慣、持っている力、その時の状況に応じて、外出を楽しめる支援に取り組みたいと考えている。天気の良い日には、ペランダの椅子に座り、日光浴や外の景色を眺める機会を多くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されているご利用者様は一人しかおりません。希望に応じて使えるような支援は難しい現状にあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の訴えがあれば、職員が電話をかけ、そのあとにご利用者様にかわって話をさせていただく事があります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは常に外の景色が見られる作りとなっており、ホールから見える木や草花を見て季節感を味わう事が出来ます。朝日や西日がまぶしくないようロールカーテンで対応しております。	利用者が多くの時間を過ごす共有空間が、居心地の良い場所、安心感のある場所になるよう工夫している。歩行の妨げにならないよう、床に物を置かないようにし、安全に過ごせるようにしている。感染症対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎月席替えをして気分転換をはかり、様々なご利用者様と会話出来るよう対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	各居室にそれぞれのボードがおいてあり、ご利用者様が製作したものを貼ったり、誕生日カードや写真を飾ったりといった雰囲気作りをしております。	今まで使っていたなじみの物を持ち込み、その人らしく暮らせるようにしている。身体状況に合わせて、ベッドの位置を変え、過ごしやすくしている。衣替えは、家族の方が行い整理整頓している。掃除は、職員が行い清潔にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室それぞれにネームプレートを設置しております。		